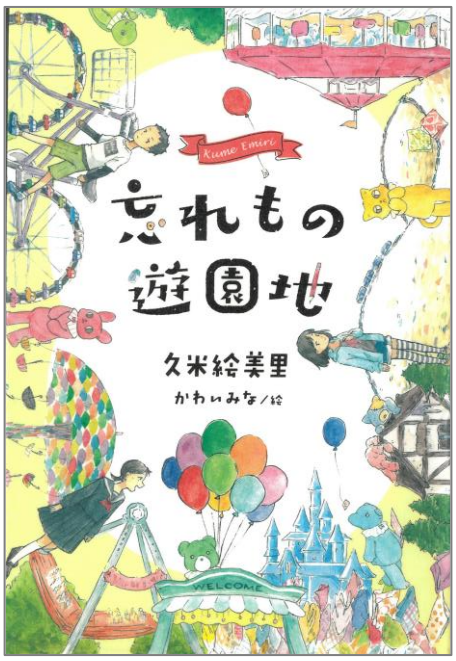
２０２６年11月１日

今回のおすすめメニュー
～忘れたい記憶～



『忘れもの遊園地』

久米　絵美里　著

かわい　みな　絵

アリス館

所蔵館：中央館

請求記号：913 ク

『ちょっとあ・じ・み』

学校に行く途中、何度も持ってくるようにといわれていたプリントを忘れたことに気づいたトラタ。どうしよう…

慌てるトラタに声をかけてきたのは、真っ白な服を着た執事のようなおじいさん。もってきたタブレット端末には、「忘れもの遊園地」と書いてあった。

―「そちらのウェブサイトに、あなたさまの忘れたいことをひとつ、投稿してくださいませんか。そうしましたら、こちらのプリントをさしあげます」―

おじいさんが持ってきたのは、まちがいなく、あのプリントだった。
「あやしすぎる」と思いながらも、トラタはタブレットに昨日あった出来事を入力。
―きのうのことを忘れられる。プリントも手に入る。いいことだらけじゃないか。―

表紙の印象とは違い、ふつうの楽しい「遊園地」ではありませんでした。

登場人物それぞれの「忘れたいこと」に胸が苦しくなったり、読む人の感情はジェットコースター。「忘れてしまいたい」と思う嫌な記憶は誰にでもあるもの。登場人物がその記憶とどう向き合っていくのか、ぜひ読んでみてください。